

済生会山形済生病院で診療を受けられた皆様へ

当院では、下記の臨床研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用、または提供されることを希望されない場合は、下記の問合せ先にお問合せください。

管理番号	457
研究課題名	深部静脈血栓症パスバリアンス分析—パス短縮の検討—
本研究の目的	<p>当院では、平成 28 年 1 月に深部静脈血栓症（以下 DVT）パス 15 日間を作成し、稼動している。パス作成後、バリアンス集計や、パスの大きな見直しは行なってこなかった。</p> <p>令和 2 年度に担当医師よりパスの短縮の可能性について提議があった。</p> <p>DVT パスを使用していて、患者の年齢層が高い、介護サービスなどの調整により入院期間延長するケースが多い印象があり、そのような状況でパスの短縮は難しいのではないかと考えた。しかし、今までバリアンス集計をしていないため、主観的な評価しかなく、パス短縮の可能性を検証するためには、現在の DVT パスの稼働状況やバリアンスを数字化し、客観的に評価する必要があると考えた。</p> <p>今回、パス短縮の可能性を探るべく、DVT パス 15 日間パスの稼働状況、属性、バリアンスを集計し、現在の課題を明確にすることで、パス短縮が可能性について検討する。</p>
対象者	平成 31 年 1 月～令和 3 年 3 月までに、深部静脈血栓症で入院し、パスが適応となり治療を受けた患者
研究代表者	長岡和恵
当院の研究責任者	長岡和恵
実施（予定）期間	承認後～データー収集が終わるまで (平成 31 年 1 月～令和 3 年 3 月)
研究方法	単純集計 バリアンスを分析
研究に用いる 試料・情報の種類	平成 31 年 1 月～令和 3 年 3 月までに、深部静脈血栓症で入院し、パスが適応となり治療を受けた患者 年齢、性別、入院日数、既往歴、日常生活自立度、深部静脈血栓症パス使用後のバリアンス

外部への試料・ 情報の提供・公表	第21回日本クリニカルパス学会学術集会 ポスター発表
個人情報の取扱い	平成31年1月～令和3年3月までDTパスを使用した患者の入院期間やバリアンスなど数字データを使用し、患者固有のものは使用しないため、患者個人が特定されることはなく、患者への不利益は生じにくいと考える。またデータは研究以外には使用せず、研究終了後には破棄を行う。
利益相反	なし
お問合せ先	社会福祉法人 恩賜財団 山形済生病院 5B病棟 長岡 和江 (023-682-1111 代表)